

FMU 男女共同参画通信

第10号 September 2016

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

猛暑だった夏が嘘のように、朝夕は肌寒さを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度も上半期が終り、下半期に突入いたします。そんな今回のレターでは、上半期を振り返りつつ、下半期に行われますイベント等をご紹介します。

10月は男女共同参画月間です。講演会も開催いたします！！

「男女共同参画行動計画」の取組の一環として、4月と10月を「男女共同参画推進月間」とし、男女共同参画の意識の浸透をはかるような取組を集中的に行うこととしております。

具体的な取組の一つとして、各講座において「男女共同参画マニュアル」を用いて所属内で研修会を開催いただき、「チェックシート」を用いて一人一人自己点検を実施して頂くなどして、男女共同参画の理解を深めていただきます。

また、10月21日(金)には、「H28年度福島県立医科大学男女共同参画講演会」を開催いたします。講師に本学副学長/内閣官房参与/慶應義塾大学 名誉教授/一般社団法人 吉村やすのり生命の環境研究所代理理事 吉村泰典氏と公益財団法人笹川記念保健協力財団理事長 喜多悦子氏を招聘しましてご講演いただきます。多数のご参加をお待ちしております。

FMU キャリアサポート交流会を開催しました

6月23日(木)に、学生を交えての交流会「FMUキャリアサポート交流会—未来の“私”を考えよう—」を開催いたしました。講師に、本学看護学部家族看護学部門助教 鈴木学爾先生と秋田大学より医学部総合地域医療推進学講座准教授 蓮沼直子先生を招聘し、ご講演いただきました。

お二人には、育児と仕事の両立、私生活の様々な様子などをお話いただきました。参加者からは、「日頃なかなか聞けないようなお話を聞くことができ、とてもためになりました」「目標を言語化し具体的に達成するために必要なことを書くと行動力につながると思いました」などの声が寄せられました。

ご講演終了後には、交流会も開催され、学生を交えて親睦を深めました。

蓮沼先生には、後日男女共同参画に関する教育としまして、医学部3年生を対象にご講演いただきました。グループに分かれてワークショップも行われ、男女共同参画について理解を深めました。



FMU スキルアップセミナー『Scopus 講習会』を開催しました

研究技能向上のための講習会として、8月23日(火)に「Scopus 講習会」を開催いたしました。医学論文や各種報告書の作成のためには、適切な情報収集・活用が不可欠です。本セミナーの開催により、論文執筆の際の有効な情報検索方法を学び、実践的な活用法を習得しました。参加者からは、「Scopus がこのように多様な検索方法があることを知らなかったので、学べてよかったです」「重要論文の探し方がわかりやすく、活用できそうです」などの声が寄せられ、多くの方々に参加していただき、大変有用な講習会になりました。



7月、8月に「FMU イングリッシュカフェ」を開催しました

毎月、交流の場として「FMUカフェ」を開催しております。7月は、本学放射線医学県民健康管理センター国際連携部門 教授 Kenneth Nollet 先生に国際学会等で役に立つ論文の書き方やコミュニケーションスキルについてご発表いただきました。8月には、マウントサイナイ医科大学の交換留学生の方々に男女共同参画についてご発表いただきました。今年度初開催となりましたが、

多くの方々に参加いただきとても有意義なイングリッシュカフェとなりました。

今年度は、FMU イングリッシュカフェの他にも、女性教職員を対象としました『FMU 女性限定カフェ』や本学の男女共同参画の現状を話し合う『FMU キャリアカフェ』を開催する予定となっております。皆様のご参加をお待ちしております。



全員参加型 FD 講習会
男女共同参画講演会

日時 平成28年度10月21日(金) 17:30~19:00
場所 福島県立医科大学 講堂
対象 大学教職員、附属病院職員(全職員)、大学院生、学部学生

「輝く女性が日本の危機を救う」
吉村 泰典 氏
本学副学長/内閣官房参与/慶應義塾大学 名誉教授/
一般社団法人吉村やすのり生命の環境研究所代理理事

「Genderという呪縛
—GapとDifference—」
喜多 悦子 氏
公益財団法人笹川記念保健協力財団 理事長

※本セミナーは、福島県立医科大学大学院必修科目(8)に該当します。
大学院生は、履修科目ごとの申請の上、ご参加下さい。

お問い合わせ 男女共同参画支援室
E-mail: gendop@fmu.ac.jp / TEL: 024-547-1457 / 内線: 2807
HP: http://www.fmu.ac.jp/seminar-gendop/

本支援室では、ライフイベント（出産・育児・介護・看病等）を抱えた教職員の研究支援を行っております。今回は、支援を受けられている教職員の方々にお話を伺いました。

研究支援ありがとうございます

薬理学講座 講師 坂本多穂 先生

この度は、研究支援員を配置くださって誠に有難うございました。私は2006年に本学・薬理学講座に赴任後、薬物の骨格筋への作用を中心とした研究をしています。当講座は10人いたスタッフが4人に減り、教授と秘書の教室運営業務の多くは私がすることに。追い打ちをかけるように、新カリキュラム移行に伴う年間授業・実習数の倍増。その上、1歳と4歳のわんぱく二人の育児で、家での作業時間も場所ありません。しかし「若手」なので、研究論文も出さなくては評価されない……。この苦境を脱すべく研究支援員さんをお願いいたしました。研究支援員さんが来てから、私の研究環境は大きく改善されました。実験は目が離せない工程が多いので、一人でやるならまとまった時間が必要で、合間を縫って行うのが難しい作業です。突発的に非研究業務が入り、会議の予定で長時間拘束される状況では、実験を計画してもなかなか実行できるタイミングが見つかりません。しかし今は支援員さんがいてくれるおかげで、私が実験室にいられない時間でも実験が着実に進行していくので本当に助かります。また、思わぬ点として、定期的に支援員の方が来てくださるので、次に何の実験を行うか常に考え続ける必要があり、研究アイデアを立案するうえでとても良い刺激となってくれております。

Timely help

救急医療学講座 助手 大野雄康 先生

「あかりちゃん、パパがご本読んであげるね」「えー、ママじゃないと、いやー」
普段家にいない父親が、時々小さい娘の世話をしても、上手くいかない。臨床業務、ドクターヘリレジストリの構築、そして薬理学講座での基礎実験、救急医として、大学院生として、私がこなす仕事はとても多い。救急は人手不足が深刻だ。仕事の代替は効かない。この現実、容赦なく私の家庭の時間を奪っていった。妻も医師で状況は同じ。育児に疲れて寝入る妻を見ては、申し訳ない気持ちになっていた。
この危機的状況は、男女共同参画室によって救われた。支援員さんは週2回、きっちりデータを打ち込んでくれる。私は時間的にも心理的にも楽になった。その結果、最近娘たちと私だけで外食に行くなどができるようになった。娘達が、「パパ」と走り寄ってくる頻度も、支援を受けてから有意に増えた。
私と同じような現状を抱えている父親、母親はきっとまだ医大の中にたくさんいる。そのような方々にこそ、ぜひこの支援事業に申し込んでいただきたい。そして、家族に還元していただきたいと思う。「あかりちゃん、パパがご本読んであげるね」「今日はなにー？」

今年度下半期（平成28年10月～平成29年3月）の研究員支援制度は、12名の教職員の方々の支援することになりました。

来年度上半期（平成29年4月～平成29年9月）のニーズ調査（配置希望調査）は、平成29年2月に行う予定です。

Information

第5回

FMU キャリアアップセミナー

日時■平成28年10月4日（火）

16:30～17:15

場所■6号館 第3講義室

演題■「ワークライフバランスのバランスとは？」

講師■総合科学教育研究センター

兼看護学部総合科学部門

教授 後藤 あや 先生

FMU イングリッシュカフェ

日時■平成28年10月11日（火）

17:30～18:30

場所■1号館（管理棟）カンファランス1

発表■『From teacher to researcher: the art of a non-traditional career』

Alison Lloyd Williams 氏

イギリス・ランカスター大学

社会学講座 研究員

第6回

FMU キャリアアップセミナー

日時■平成28年11月15日（火）

16:45～17:45

場所■6号館 第3講義室

演題■「調整中」

講師■本学附属病院長

脳神経外科学講座

教授 齋藤 清 先生

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

【連絡先】E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel: 024-547-1657 / 内線: 2807

HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ

コーディネーター 氏家 智亜紀